



木造住宅の耐震について

安心して暮らせる木造住宅

議員

常総市の耐震化については、昭和56年以降の耐震化を目標にしているが、平成12年の基準に合わないものは熊本地震で大きな被害を受けている。新しい耐震基準でも壊れている中では、12年以降の基準を採用する必要があるのではないかと。常総市として、今後の新耐震の木造住宅建設についてどうするのか。

都市建設部長

一般的に昭和56年の建築基準法改正以前を旧耐震基準、それ以降を新耐震基準と言われている。当市では平成28年3月末の推計値で、旧耐震基準の木造住宅が約7400棟となっており、木造住宅全体の約40%を占めている。まずは、旧耐震基準により建築されている木造住宅の耐震化をより一層進めていきたい。

議員

耐震化に当たって問題なのはリフォームにお金がかかることである。災害で復興する基本は家であり、家に住んで初めて復興ができる。そのためには、リ

フォーム助成制度を実施し、災害時等には一番初めに使えるようにするほか、金額についても耐震の問題について本気になってやってほしい。また、国土交通省で出している「誰でもできるわが家の耐震診断」というものがあるが、市で積極的にPRしていく必要があるのではないかと。そういう面でリフォーム助成制度について尋ねる。

都市建設部長

現行の耐震診断に関する助成制度をさらに拡充し、耐震改修計画や耐震改修工事の費用も助成対象とすべく、引き続き努力していきたい。

議員

努力というのは、来年度に予算化することと受け止めておく。



日 曜 日 JOSOSHIGIKAIDAYORI JOSOSHIGIKAIDAYORI JOSOSHIGIKAIDAYORI JOSOSHIGIKAIDAYORI 日 曜 日

どこに行ったかにぎわいの拠点



水海道中心商店街のにぎわいのあるまちづくりについて



市民の広場

と、カスミとしても優先的に市と協議を進めたいということを確認し合っている。跡地に水海道公民館といった公共施設を持つてくることで、市民の広場の有効活用、中心市街地の活性化に資するので前向きに進めていきたい。

市長

水海道公民館移設だけの問題でなく、周遊していただく、または人が集まる施策として、複合施設も視野に入れていきたい。

議員

水海道公民館の敷地は、建設当時であれば間に合ったが、今は車の時代であり、スペースが不足している。市民の広場も建物もトイレもない。実効性のあるように、計画の見直しをしながら早期に実行していただくようお願いしたい。

市長

市街地の方だけでなく、さまざまな方で検討会をつくり、議会の意見をいただきながら積極的に進めていきたい。

議員

計画して実行しようとしたら、選挙でストップがかかるようなことがたびたびあった。そのようなことがあっては困るということを一言言っておきたい。

副市長

水害により協議は一時中断していたが、市長選後にカスミ跡地を利用したいと考えているこ